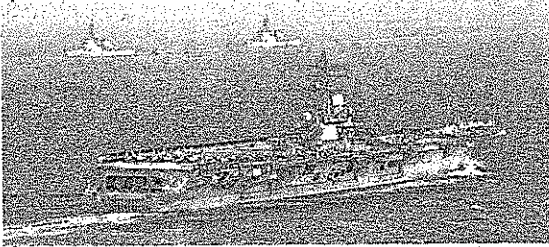


「安倍首相のスタンドプレー」

米空母乗艦 住民らに警戒感

米原子力空母ロナルド・レーガンが配備されている米海軍横須賀基地のある神奈川県横須賀市では、安倍首相が同空母に乗艦したことに、警戒感を示す住民も。新倉裕史さん(68)は「日米軍事一体化の幕開けだ」と話した。新倉さんらが加わる実行委員会は、基地に近い三笠公園で、空母や基地の問題について考えるヒースフェスティバルを開催。「自衛隊の最高指揮官が乗艦したことで空母に多くの関心が集まれば」と原子力艦が配備されている問題を訴える契機にしたいと語った。

自衛隊の観艦式に合わせ、基地最寄りの駅前で空母配備に関心を持ってほしいと呼び掛けした横須賀市民九条の会共同代表の岸牧子さん(56)は「安倍首相は日米の共同で抑止力の強化と云うが、さらなる武力強化の連鎖しか生まない」と訴えた。



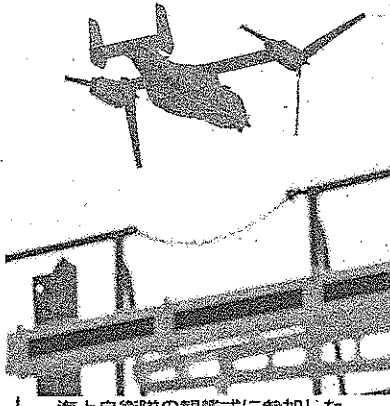
神奈川県沖の相模湾を航行する米空母ロナルド・レーガン。奥は観艦式で隊列を組む海上自衛隊のイージス艦=18日(海上自衛隊ヘリから)

オスプレイ初参加 自衛隊観艦式

海上自衛隊などの艦艇や航空機を安倍晋三首相らが観閲する自衛隊観艦式が十八日、神奈川県沖の相模湾であり、米海兵隊普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)所属の垂直離着陸輸送機MV-22オスプレイ一機が、自衛隊側の要請もあり初めて参加した。三年に一度の開催で、参加したのは日本、米国、フランス、オーストラ

リア、インド、韓国の艦艇計四十二隻と日米の航空機計二十九機。

式では海自のイージス艦あた(こ)や最大護衛艦いずもなどが一列に並んで整然と航行。上空では、海自の哨戒機や空自の戦闘機などに続いてオスプレイが飛行した。潜水艦の潜航と浮上、哨戒機による爆弾投下などもあり、各艦に乗り込んだ約一万人の見学者らは熱心に見入っていた。



海上自衛隊の観艦式に参加した米軍のMV22オスプレイ=18日午後、神奈川県沖の相模湾で

安保法成立

自衛隊 新任務へ着々

武器使用基準など改正準備

政府は、安全保障関連法の成立で自衛隊の任務が拡大したことに対応するため、部隊行動基準や隊員の武器使用基準の改正作業などを始めた。自衛隊独自の防衛警備計画や日米共同計画の見直しを進める。

安保法で追加された自衛隊任務が初めて実施されるのは、国連平和維持活動(PKO)での「駆け付け警護」の可能性がある。政府は早ければ来年三月までに行われる法施行直後にも、南スーダンに展開して

いるPKO部隊への任務に「駆け付け警護」を追加することを検討している。これは離れた場所にいる他国軍や非政府組織(NGO)が武装集団に攻撃された場合、助けにいく任務だ。海外で邦人の安全が脅かされた場合の「邦人救出」に備えた計画策定も進める。「駆け付け警護」や「邦人救出」には、これまで認められていなかった「任務遂行型」の武器使用が必要になる。防衛省は新たな任務や武器使用の基準を作成し、部隊の訓練を行う。

日米共同での警戒監視や

訓練中に自衛隊が米軍を防護する「平時の米艦防護」の具体的な運用方法も策定する。中国が海洋進出を強める南シナ海での米軍と共同の警戒監視活動について、中谷元・防衛相は十四日の民放番組で「わが国の安全保障に与える影響を注視しながら、今後十分に検討していく課題だ」と意欲を示した。

武器の輸出や他国との共同開発などを一元的に担う防衛省の外局「防衛装備庁」は一日に発足。日米両国の連携は、軍事訓練だけ

でなく、武器調達の間でも強まる。

中谷氏は法成立後、「拙速を避け、周到な準備を行う。十分な時間をかけ、慎重の上にも慎重を期して検討する」と繰り返ししている。しかし、政府は武器を使う基準などを明らかにすれば、自衛隊の活動に支障が出るとして、具体的な内容は明らかにしない。

安倍晋三首相は十八日、海上自衛隊観艦式の訓示で「諸君にはいかなる敵しい任務にも耐えてもらいたい」と訴えた。(金杉貴雄)